

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第 0175000413 号		
法人名	社会福祉法人北見有愛会		
事業所名	グループホームゆう&あいひまわり(1Fユニット)		
所在地	北見市花園町38番地6		
自己評価作成日	平成30年1月28日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0175000413-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆう&あいひまわりは、静かで穏やかな住宅街の中に位置しており、法人理念である入居者の権利擁護や自立支援、家族支援をケアの基本とし、専門的知識の維持向上や社会資源の一つとして地域への貢献ができるよう努めております。入居者の方々には安心して毎日を過ごして頂けるよう心掛け、定期的医療機関の受診の時は、ご家族の負担軽減のためできる限り職員が同行し、主治医との信頼関係や連携の構築に努めております。終末期を迎えても、ご本人やご家族の希望に寄り添った介護が行えるよう支援しております。また、ご家族やご本人の希望により自宅への帰省の手助けや外出支援も行っております。職員については、事業所理念もとに素直で謙虚な姿勢を持ち、介護職として、社会人としての志を高く業務を行うよう努め、法人内4ヶ所のグループホームとの会議や研修会を開催し、ケアの質の向上を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を「向日」とし、利用者と真っ直ぐに向き合い、尊厳を大切にしながら最期のひと時まで寄り添える介護ができるよう職員間で共有し、業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への貢献を重視し、町内会行事への参加や意見交換を行うなどし、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症をより深く理解して頂けるようサポーター養成講座を開催した所、たくさんの方々が参加され関心の高さが伺えた。付近住民の方が施設や認知症について相談に来られた時は、傾聴し、できる限りわかりやすく説明させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の運営推進委員の方の意識も高く、高齢者や施設サービスの内容の他に、防災に関する意見交換を行うなどしサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営に関して不明な点はその都度、市の担当者へ確認している。また高齢者相談支援センター主催の研修会に参加したり、運営推進会議を通して連携や協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束に繋がらないよう職員同士で話し合い、利用者個々の心身の状況を把握し見守りを行っている。また施設での内部研修やGH合同研修会を開催するなど定期的な勉強会を行う事で意識向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と共に高齢者虐待防止の内外研修に参加し、防止に努めている。また職員間で声掛けや介護方法を話し合い、防止意識を常に持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、具体的な制度の内容や現状、問題点などを理解することができた。また、親族のいない、または交流のない方からの入居相談も増えているため、今後も制度を正しく理解しながら支援に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、十分に説明を行い理解して頂けるよう努めている。また改定や要介護度変更による利用料金の変更についても具体的に説明を行い理解して頂けるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会時や電話連絡時、行事に参加される際に頂いた意見や要望を申し送りや会議の場で確認や話し合いをする事で業務に反映するよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で職員の意見を伺うほか、その都度職員と話し合いを行い、それをもとに業務改善や個別ケアに反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として年1回の昇給制度がある。その他、職員から希望があった際には常勤・非常勤の変更や勤務時間の変更など、働きやすい職場を目指した環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師の派遣や外部研修に参加することでケアの質や専門知識の向上を図るよう努めている。また、内部研修では各職員が講師となり発表することで、より深く理解することができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者相談支援センター主催の研修会へ参加し、同じ地域の同業者の方と交流したり、同法人内においてもグループホーム部会による職員同士の交流機会を設け意見交換や相談を行いケアへ反映させている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関より事前に頂く情報提供をもとにご家族やご本人との面談を行い、聞き取りや関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時にご家族より不安なことや要望を伺っている。また何か気づいた点や新たな心配ごと、不明な点があった場合には、いつでも連絡を頂くようご家族へ声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約時までに聞き取りを行った情報・要望やご本人の希望をもとに支援内容決定し、確認している。また入居後は環境の変化に伴い、心身の変化もあり得るため、ご家族が不安に感じることがないように十分に説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念を忘れずに、日常生活で不明なことは入居者の方に伺うなどとし、コミュニケーションを図っている。また管理者は人と人との信頼関係を構築するよう指導している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人との距離感を適度に保ち良好な関係が築けるよう心掛けている。また行事の際にご家族も一緒に参加して頂くなど、施設としてできる支援とご家族としてできる支援を分けて説明し、双方がご本人を支援していることの理解を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との面会や外出の相談支援を行い、馴染みの関係が希薄にならないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	短時間であっても入居者同士での会話や交流が図れるように職員が場を設けるなどしている。また貼り絵行事などから利用者同士で声を掛け合い、一つの目的を達成するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後であっても、ご家族からの連絡や感謝の言葉を頂き、新たな相談を受けるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中の際に落ち着いてゆっくりと話をする時間を設け、思いや意向を伺っている。またご家族の希望も確認し、できるだけ希望に添う支援が行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までに生活歴や環境、趣味嗜好を伺い入居後の生活に取り入れ反映できるよう心掛けしている。また、日常的に会話の中から伺った内容から職員間で話し合い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活において些細な事でもその都度記録、報告、検討を行い、職員間で共有し合うことで、心身の状態を把握し、個々のペースで生活が行えるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやアセスメントを行っている。またご本人やご家族と話し合い、意向をできるだけ反映したプランを作成できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容を記録するに辺り、表情や仕草、話された会話の内容などを、ありのまま記録している。また気付いた点を申し送り時に職員で検討しケアの見直しやプラン作成時の検討に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対象となる入居者のご家族には、市の介護用品給付制度などのアドバイスや代理申請を手続きなどを行っている。また、入院中のご本人の様子を市外のご家族へ状況報告連絡を行ったり、洗濯物や消耗品を届けるなど支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ場所へ通院し、ご家族との外出支援も行うなど地域の中で不安なく生活していけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関受診の際にはできる限り職員が同行し、不安のないよう主治医へ情報提供を行い施設との信頼関係構築に努めている。受診結果はご家族へ電話連絡や面会時に報告、相談している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の心身の状態を記録し、看護職員へ報告を行っている。また個々の心身状況に合わせ、個別に訪問看護を利用されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添いを行い、ご家族への連絡や医療機関への情報提供などを行っている。また、入院中も電話連絡や面会の際にご本人の様子を伺い、ご家族へ伝えたり相談を受けたりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の看取り指針をもとに、ご本人やご家族の希望を確認している。終末期に近づいてきた時にはご本人やご家族と相談し、主治医へ報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修ではマニュアルをもとに確認を行っている。また、会議の場では管理者やリーダーより急変しやすい状況にある利用者への対応や連絡方法を確認したり指示を行うなどし、共通認識のもと適格な対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを災害の内容や状況に合わせて対応できるよう改訂し、見直しを行った。それを元に内部研修では職員に周知を行い、運営推進会議においては町内会の方々にもマニュアルを周知し、話し合いを行い協力体制を構築している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての内部研修を行っている。また、本人本位でのケアとなるよう会議等において、管理者より繰り返し声掛けや介助方法の指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事や興味が高いと思われる話題を提案し、意見や反応を伺ったり、自己選択できるような声掛けに努め、日常生活が自分本位で送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを基本に、日々の心身の状況やご本人の希望に合わせた介助方法や寄り添い過ごす時間を設けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の準備や散髪、洗顔整容などはその都度確認し、気分を害さないような声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には入居者の方と共に計画を立案し、好みの食事を提供するなどしている。また食事準備や片付けも、職員と共にできる範囲で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の心身の状況や希望に合わせ、食堂以外の場所へ食事を運膳し提供するなどしている。食事や水分はその都度記録し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがい、義歯洗浄などを行うよう声掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄回数や状況を記録し、排泄サイクルの確認、記録を行っている。また、その日の様子を観察し状況に合わせ声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量の記録を個別に実施し、間隔に合わせ誘導回数を増やしたり、主治医の指示のもと下剤等の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	寝たきりの方でも二人介助で浴槽に入って頂けるよう対応している。入浴日時も決めてはいるものの、個々に意思を確認し状況に合わせて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、心身の状況を確認しながら、昼夜逆転しない程度に日中・夜間問わず職員の見守りのもと休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関受診後の状況や内服薬の変更は、記録と処方箋を確認を職員全員で行っている。また申し送りも随時行っている。服薬介助の際には複数職員での確認をし、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報提供や生活歴、ご本人とのコミュニケーション等から洗濯物たたみや食器拭きなどの生活上での役割を見つけて頂いたり、集団、個別問わずレクリエーションからの気分転換や楽しみごとを見つけて頂くよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内行事を屋外で行ったり、天候が良い日は施設周辺の散歩をしたりしている。また、一時帰宅や外泊の支援などもご家族の協力を頂き実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側でお預かりしている金銭については、使用前後共にご本人やご家族へ使用理由を確認し、同意頂いている。また、お小遣い程度の少額を自分で管理され、外出の際に買い物にされたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ随時電話連絡が可能である。手紙のやり取りも希望があれば職員が代筆することで対応可能な体制は整えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下などの共用空間は入居者の方と職員が作成した季節の飾り付けや掲示物があり、家庭的な雰囲気作りを目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人が過ごしたいと感じた場所で過ごしたり、食事をして頂いたり、おやつを頂くなどしている。職員は心地よいと感じた場所で過ごして頂くよう声掛けを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が希望する馴染みのものをご家族へお願いし届けて頂いている。希望が聞かれた際には、確認しながら居室の模様替えや整理を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下には案内版を表示したり居間の見通しを良くし、移動に障害がないよう環境整備に努めている。		